

30代教師の転

起

んでも
きる!

失敗やつまずきを転機に、授業力を高める!



「授業で子ども扱いされている」 生徒の言葉から自立性に訴える授業に挑む

東京都立八王子東高校

石崎陽一

先生

35歳

私が乗り越えてきたもの

「授業でつまずくと生徒はついてこない」

30歳になる年に、八王子東高校に赴任しました。前任の二校ともいわゆる進路多様校だったため、都内有数の進学校での学習指導には大きな不安がありました。「東京大や一橋大といった難関大への現役合格を目指す生徒に比べられる授業をしなければならない」というプレッシャーを克服しようと、教材と入試問題の研究に打ち込みました。そして得た知識や情報を生徒に過不足なく伝えようとした。「進学校では授業でつまずくと、生徒はついてこない」。先輩のこの一言がずっと胸に突き刺さっていました。

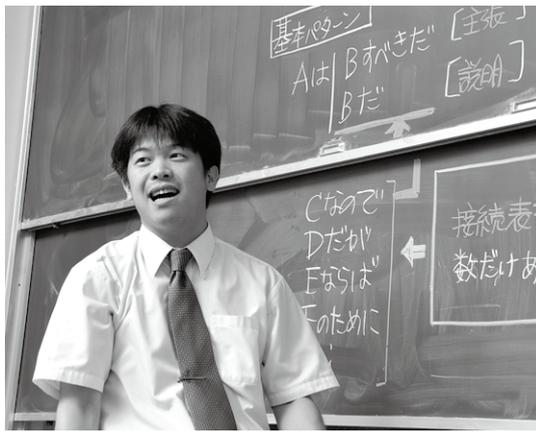
「子ども扱いをされている」授業

授業アンケートを実施した際、回答に「分かりやすいけれど説明が丁寧過ぎ、子ども扱いをされている気がする」

「3分の2の生徒が『速い』と感じる授業」を目指せ

という声が多かったのには呆然としました。進度については「ちよど良い」という声が多く嬉々としたものの、当時の校長からは「ちよど良い」とは『遅い』ということ。進学校に求められるのは、3分の2の生徒が『速い』と答える授業だ」と指摘されました。

確かに、英語が苦手な生徒の顔が目の前をよぎり、同じ説明を2回繰り返しすることがありました。私は、結果的にすべての生徒に対して無難な授業をしていたのだと思います。周囲の先輩の先生方に相談する中で、自分がまだ進路多様校での指導経験にとらわれており、目の前の生徒と向き合った指導をしていなかったのではないかと思ひ至りました。



いしぎき・よういち ◎教職歴12年。同校に赴任して6年目。担当教科は英語。3学年担当。
東京都立八王子東高校 ◎全日制/普通科/共学。
10年度入試では、国公立大は、北海道大、東北大、筑波大、東京大、東京外国語大、一橋大などに計88人が合格。私立大は、慶應義塾大、国際基督教大、上智大、早稲田大などに延べ346人が合格。

そして、これからも挑み続ける目標

生徒に考えさせる授業を試行

スピード感があり、生徒の積極性や自主性を生かし、卒業後にもつながる技能に習熟させる授業。そんな授業を自信を持って行いたいと考えていた頃、灘高校の木村達哉先生の教師塾を知りました。全国から集まった教師が模擬授業をして講評し合うその塾に、指導力を高めたい一心で参加しました。私の授業は「そのやり方では、生徒は寝る」と酷評されました。

音量と抑揚の不足を指摘されたので、授業を録音して教室後方まで声が届いているかを確認するのに加えて、1分間に話す言葉の数を書き出し、間

の取り方を意識しました。

「コンパクトな説明の方が、生徒にインパクトを与えられる」との助言も受け、細かく説明していた単語や文法では要点を絞って解説するよう努めました。そうして捻出した時間は暗唱や要約、英作文などに充て、生徒に考えさせる活動を盛り込みました。教師の説明を最小限にすることで、生徒が成長する授業が出来ると思つたのです。

木村先生の教師塾への参加と同時に、校内の英語科教師の間で、互いに授業を見せ合い、失敗事例も含めた情報交換をする雰囲気がいっそう広まりました。先輩の先生方と日々の授業で

抱くさまざまな疑問を共有し、切磋琢磨する環境に身を置くことが出来るのは、私の貴重な財産となっています。

自分の引き出しを増やしていく

赴任6年目の2010年度は、3年生を担当しています。生徒により習熟度が異なるため、進度を全員には合わせられません。授業は成績上位層の生徒に合わせて進行し、理解が十分でない生徒のフォローは、朝や放課後、長期休業中などに個別に行っています。

最近では進度を調整し、卒業後も生かせる英語力を付ける活動や受験対策だけでなく、英語の歴史や英単語の裏にある文化的な背景などを授業に織り込むことが出来るようになり、自分の目

現状に満足したら、それ以上授業を改善できない

指す授業に少しずつ近づいています。

もつとも、授業スタイルは今のままで良いとは考えていません。現状に満足したら、私も授業もそれ以上成長できませんし、生徒の実態に合わせて変えていかなければ、マンネリ化してしまいます。客観的に点検するため、今でも授業は毎回録音し、聞き返します。

素晴らしい授業をする先生は校内・校外に多くいます。しかし、それを私がそのまま取り入れてもうまくいくはずがありません。大切なのは、自分が目の前にいる生徒を指導した時に効果が上がると、方法をアレンジすることです。生徒の意欲を高め、学ぶ楽しさを伝える授業をするために、今後も汗を流していきたいと思えます。

石崎先生 の 授業実践



Q&A

Q 生徒を能動的に授業に参加させるために、どのような取り組みを行っていますか？

A 毎回の授業冒頭に10分程度、チャンネルと呼ばれる音楽に合わせて行う単語学習を取り入れています。事前配布の語いリストを用い、次の順序で進行します。
①私に続いて発音練習 ②リストの英語を隠し、日本語を見て瞬時に英語が言えるよう声に出して各自練習 ③生徒同士ペアで練習 ④リストを裏返し、私の言う日本語を、すばやく英語で言う。短時間の練習を重ねることで、単語の意味はもちろん、発音・アクセントにも習熟できると考えます。

Q 生徒に自ら考えさせ、学習効果を高めるために、どのような工夫をしていますか？

A 3年生の授業では500~800語程度の英文を2コマで読みます。説明問題などに仕立てた精読プリントを事前配布し、予習させておきます。1コマ目は、問題ごとに生徒同士が意見を交換。解答方法は口頭だけでなく、生徒に板書させるなど、変化をつけます。最後に私が補足説明を行います。

2コマ目は、その英文を150字の日本語に要約させ、答案をシャッフルし、5項目ほどの採点基準と合わせて配付。生徒は友だちの要約が基準をどれだけ満たしているかを採点します。私は机間巡視し、質問に答えます。他者の答案を添削することで自分の理解が深まり、採点理由を相手に説明することで一人ひとりの持つリーダーシップを発揮させる機会にもなります。

メッセージをお寄せください

◎更なる授業力の向上を目指す石崎陽一先生へメッセージをお願いします。同じ課題を抱えている同世代の先生の共感の言葉、独自の授業スタイルを確立された先輩からの応援やアドバイスなどを自由にお寄せください。編集部より、石崎先生へお届けします。

下記のe-mailアドレスにメッセージを送信ください

view21_since-1975@mail.benesse.co.jp